

「はかり屋」記事掲載



昨年応募した埼玉県内の空家や空店舗の活用事例を競うリノベーションコンペで激励賞をいただきました。この結果を受けて、地方版の新聞記事に取り上げていただきました。「地域としても励みになります」と激励のお言葉もいただき、まさに今後の活動の励みとなりました。ありがとうございました。

年始の番組にはかり屋が続々登場！

日本テレビ「ぶらり途中下車の旅」毎日放送「所さんお届けモノです」テレビ朝日「人生の楽園」日本テレビ「笑ってコラえて！」とこの数ヶ月間で数々の番組で取り上げていただき、WEB 媒体や雑誌の取材なども多く、取材対応に追われております。番組制作会社によると、コロナ禍で東京よりも都市近郊地域の資源やスポットを多く取材している事がひとつの要因のようです。こんなところでまでコロナの影響があるとは思っていませんでしたが、商業店舗としてはこの追い風を活かした運営を行っていきたく思います。

ふるカフェ系ハルさんの休日出演決定！



越谷の蔵カフェとして「はかり屋」が取り上げられてから早三年。そんな NHK さんから改めて畔上に出演のオファーがやって参りました。場所は東京都八王子の大正時代の蔵カフェです。今回の畔上の役は越谷からやってきた建物に詳しい建築士というもの。三年前と同じように NG 連発で、主演の渡部豪太さんを困らせてしまいましたが、無事？撮影は終了しました。楽しいような楽しくないような撮影でしたがとても良い経験をさせていただきました。オンエアはあまり楽しみではありませんが、どうぞお楽しみに！

GWは日光街道と元荒川散策を！

GWは日光街道と元荒川散策を！

新年度もコロナの影響により、例年のような大規模なイベントは開催出来ませんが、「はかり屋」では越谷甲冑の展示等を行い、皆さまのお越しをお待ちしております。元荒川川沿いでは桜花のシーズンから新緑の季節を迎え、遊歩道整備も進んでおります。

ゴールデンウィークには是非分散策をお楽しみ下さい！



おしらせ

2/27.28 越ヶ谷宿春の雛めぐり

残念ながら今年の雛めぐりイベントも中止となってしまいましたが、はかり屋を中心に各店舗には雛人形を飾り、お客様をお迎えしました。穏やかな陽気にも恵まれ気持ちの良い春の一日となりました。



アルバイト 亨介登場！

はじめまして！高橋亨介です。縁あって、今年の2月からアルバイトとしてこちらで働かせていただく事になりました。芝浦工業大学で建築を学んでおり、現在2年生です。日々の課題に追われながら、休日には趣味のグルメ巡りなどを楽しんでいます。まだまだわからない点も多いですが、戦力となれるように頑張ります。よろしくお祈りします！

あとがき

今年は桜の花も早く、季節は一気に初夏へと向かっているようです。上の娘は地元の中学へ入学し、家族の成長を感じながら新年度を迎えています。昨年度の停滞感が嘘のように忙しい毎日ですが、今年度は昨年度の経験を活かしてチャレンジしていきたいと思っています。今号も最後までお読みいただきありがとうございました。



順声平語

[第14回]

東日本大震災から10年、これからの暮らしを考える

久しぶりに古建築に触れてきました。どこか分かる方はかなりの木造ツウです！



じめました。これまで「身体的距離感」だけでの繋がりの方が遥かに長い期間を占めてきましたが、この10年で特に若い世代を中心に「心理的距離感」の繋がりが一気に増えているように感じます。価値観を共有するツールとしてはこれほど素晴らしいものはありません。これをきっかけに、リアルな繋がりに発展する事も豊かな暮らしを支える事に寄与していると思います。

一方で、この10年間で積極的に繋がる必要性の無い関係を一切断ち切る傾向も強く感じています。特に地域活動には顕著に表れています。自治会やPTA活動への未加入、地域のボランティア活動への不参加、地域団体への無関心など、人口減少にもあまり影響を受けていない地域でも、人材不足や運営困難の声が多く聞こえてきます。

東日本大震災から10年の節目を迎えました。個人的には結婚をして3年目、上の子どもが赤ん坊の時に震災を経験しました。妻の祖父母は福島県の沿岸で津波にのまれ一瞬で家族を失う事になりました。津波に流された家跡の風景や遺体収容所の凄惨な状況は一生忘れる事はできません。もっと早く津波の情報が伝わっていたら、誰かが一緒に住んでいたら違った状況になっていたのではないかと考えた事もありました。

東日本大震災から学ぶ事の最も重要な事は、この二つの距離感をバランス良く兼ね備え、どんな時でもどんな状況でも自ら豊かに暮らしていける環境を整える事だと思います。現代人の我々は「身体的距離感」を縮める事を意識する必要があります。近年はコロナ禍にありますが、リアルな交流をどのように行っていくかが鍵となりそうです。

リアルに繋がり、価値観を共有する必要性

それをきっかけに SNS で会った事のない方と繋がる事が日常になりました。不特定の人と緩やかに繋がる、同じ状況の人と共感して繋がる、自分の状況を一方的に提供する。様々なツールを駆使する事で今では SNS の使い分けも容易に出来るようになりました。これまでは家族や物理的な距離感の中で出会う人同士の支え合いしか出来なかったものが、情報の共有化で様々な支え合いが可能になってきた気がします。

この震災をきっかけに、人々が繋がるには「身体的距離感」と「心理的距離感」の両方がバランス良く必要だと感じは

